

二酸化炭素の固定堆積物中固定の研究 - 3 - 新旭浜園地でのメタン生成堆積盆の探索

CO₂ Sending Method for Geological Storage in Lake Sediments-3-Sedimentary Basin at Kosei, Shiga, contain Water-soluble Methane

西村 進[1]; 林田 明[2]; 西田 潤一[3]; 桂 郁雄[1]

Susumu Nishimura[1]; Akira Hayashida[2]; Junichi Nishida[3]; Ikuo Katsura[1]

[1] NPO シンクタンク京都自然史研究所; [2] 同志社大・環境システム; [3] 大谷大学・文

[1] NPO ThinkTank Kyoto Institute of Natural History; [2] DESS, Doshisha Univ.; [3] Faculty of Literature, Otani Univ

一昨年、二酸化炭素の湖底堆積物中固定の構想、昨年琵琶湖周辺での概査を報告した。その実証のため、RITEの依頼で、最適の掘削場所を既存のデータ、地表踏査、重力精密測定、地下水の概査の結果、滋賀県高島郡新旭町「新旭浜園地」を掘削場所と決め、予算の都合上 200m の掘削がなされた。その工程を管理した結果を報告する。この掘削に関しては、許認可を含め、滋賀県、水資源開発公団琵琶湖開発総合管理所、新旭町にお世話になった。

掘削はオールコア採取を目指し、掘削し、掘削状況、コアの状況、検層を行った。地下水、水溶性メタンの胚胎の仕方から、ケーシングのスリットを入れる個所を指定し、採水・採ガスを実施した。その結果、5層の水溶性メタン胚胎層を補足した。3 - 5 層目がガス圧が高かった。142m 深度で不整合、184.7m 深度で断層にあたった。ガス分析、コアの記載、古地磁気測定をおこなった。それらの結果を報告する。